



ピックアップ! 未来をつくるカダイ生

生活の全てをかけて。 将来の夢は東京オリンピック。

香川大学 工学部4年
造田愛永 そうだまなえ
ウエイトリフティング強化選手

「将来の夢は東京オリンピックに出場すること。」そう語るのは香川大学に通いながら、ウエイトリフティング強化選手として活躍する造田愛永さん。JOCジュニアオリンピックカップ、第35回全日本ジュニアウエイトリフティング選手権大会を連覇するなど、造田さんは世界クラスの実力者です。練習場である母校の多度津高校を訪ねると、大きな声で元気いっぱい練習する高校生に混じって、一人淡々と練習に打ち込む造田さんの姿が目に入りました。

造田さんがウエイトリフティングを始めたきっかけはご兄弟の影響からだとか。小学校ではバレーボール、中学校ではソフトテニスに熱中していましたが、同じく多度津高校でウエイトリフティングをしていたご兄弟の試合を見学した時、集中力を一気に解放するような独特の迫力に圧倒されてしまったと言います。造田さんは「ウエイトリフティングは練習した時間が必ず結果に結びつくスポーツです。自分が頑張った分だけ結果が出ます。だから、頑張れます。」とその魅力を語ってくれました。

そんな造田さんの練習中の集中力は圧巻です。自分のペースで淡々とスクワットに励む姿には、他者を寄せ付けない静かで力強い雰囲気

気が漂います。試合が近づくと、さらに集中するために自分を追い込んでいきます。「試合前は精神的に追い込んでいき、試合が終わって一気に解放するリズムがとても気持ちいいです。試合自体はとても緊張するので面白さを感じることは難しいですが、試合後は面白いという言葉以上の達成感があります。」そんな造田さんに趣味を訊ねると「趣味はないんです(笑)。今はウエイトリフティングが生活の全て。結果が出た時、一番充実した気持ちになれるので。」との答えが返ってきました。

卒業後は東京オリンピックを目指しつつ「教員免許を取得して、いつか自分を育ててくれた多度津高校で後輩の育成にも貢献したい」とも。ここ、多度津高校の練習場からまた、次の造田さんのような選手が生まれる日も近いかもしれません。



自分たちの技を通して、 競技ダンスの楽しさに触れて欲しい。

香川大学
競技ダンス部
のわーる

5年前、たった一人の経験者の呼びかけから始まった競技ダンス部「のわーる」。立ち上げ当初は、ほとんどが初心者のため、練習方法や活動の仕方など全てが手探りな状態。やはり本気になるまでには時間が必要でした。転機となったのは、岡山大学の競技ダンス部の見学に行ったこと。「それまで競技ダンスという年配の方が踊る、静かなイメージでした。」と語るのは部員の一人であり、工学研究科2年生の岡部さん。しかし、100人規模の岡山大学競技ダンス部の練習を見ると、そのイメージは払拭されました。「昔テレビで見た競技ダンスよりも迫力があり、圧倒されました。」それ以降「いつか自分たちもあんなダンスを。」と部の活動は熱を帯びていったと言います。

主な活動は、年に3回ある学生連盟主催の中四国大会に向けての練習です。大会は審査員による採点が行われる勝負の場です。その大会で良い結果を残すために毎日練習に励んでいます。練習は18時頃から始まり、21時にも及ぶのだとか。「競技ダンスは基礎の姿勢が命。この姿勢を保てなければ、踊りの練習をしても身につけることは出来ません。」と岡部さん。基礎を大切にしつつ、部員同士でテクニックを共有し合うことやディスカッションをするなど、基本的にはみんなで作

り上げていくスタイルであり、0から部を立ち上げた彼らならではのやり方です。

彼らは自分たちのダンスを通じて、競技ダンスの一般的なイメージを払拭させたいと言います。岡部さんは「競技ダンスって難しそうに思われていたり、年配の方が行うイメージだったり、ハードルが高い印象があります。でも自分たちの踊りを見て、「こんなに楽しいんだ」とか「かっこいいな」と驚いてもらえたら最高です。」と熱い想いを語ってくれました。

そんな岡部さんは今年度で大学院を修了。「社交ダンスは二人で行う競技。一人だけが上手くても成立しません。だからこそ、ミスがあったらカバーし合うことが大切。競技ダンスを通して学んだことを社会に出ても活かしていきたいです。」魅力いっぱいの競技ダンス、皆さんも是非一度体験してみたいかがでしょうか。

